

～子どもから大人まで～

社会力が よくわかる連続講座(7)

育てよう
社会力

お問合せ
教育委員会学校教育課
☎ 885-0340(内) 226

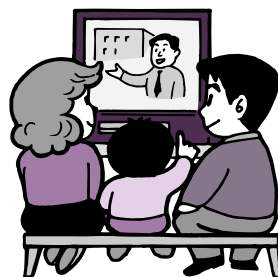
Q 7. 社会力を育てるために一番大事なことは何ですか。

A. 人間の「社会力」はどのようにして育つか。その過程(プロセス)やメカニズムを理解するためには、ヒトの子が先天的に備えている能力について知っておく必要があります。

40年ほど前から、世界各地の認知心理学者たちが新生児の研究を行ってきました。新生児とは、生まれて1カ月以内の赤ちゃんのことです。どんなことを調べたかという、「ヒトの子」(カタカナで「ヒトの子」と書く場合は、学問の世界では「ヒト種として生まれた生き物の子」という意味です。)には他の種にはないどんな特徴があるのかということです。言い方を変えれば、ヒトの子にだけ備わっている特有の能力があるとしたら、それはどんな能力かということです。

そのために様々な実験装置を工夫して調べると、ヒトの子は多くの高い能力を備えていることが分かりました。それらをまとめて言うと、「ヒトの子は大人を見分けて探す能力を備えており、出会った大人と応答する高度な能力がある」ということです。

こういう事実がわかれば、どうすればヒトの子の社会力を育てることができるかの答えはすぐに出てきます。それは、子どもの周りにいる大人たちが、徹底して子どもの相手になってあげることです。子どもが赤ちゃんであればなおさらです。子どもの相手になるということは、話しかけたり、抱っこしてあげたり、ほっぺをつついてあげたりして接することです。周りの大人はお母さんだけではなく、お父さんでも、おじいさんおばあさんでも、近所のオバさんオジさんでもいいのです。そうやって、大人たちが子どもにかまってあげることが一番大事なことです。



大人にかまってもらうことで、子どもが備えている「他^{ひと}人と応答する能力」が作動し、そのことが「社会力のおおもと(他者への関心と愛着と信頼感)」を育てることになるのです。「社会力のおおもと」が育てば後は大丈夫。子どもが大きくなるにつれて多くの大人たちと出会い交わる機会が増えますから、そこでしっかり大人と交わることさえすれば、社会力はごく自然に育ちます。

《教育長 門脇 厚司》

美浦村商工会青年部だより

《10月・11月の活動予定》

- ・10月16日 県青連ゴルフ大会
- ・10月25日 陸平縄文ムラまつり
- ・11月2日 横越商工会青年部交流会
- ・11月3日 みほ産業文化フェスティバル
- ・11月10日・11日 商工会青年部全国大会
- ・毎週木曜日 キッズ☆カンパニー2015



▲ 8月22日、いなしき夏まつり花火大会にて

□お問い合わせ先 美浦村商工会青年部 ☎ 885-2250